

県立図書館だより

平成21年10月

青森県立図書館報 第5号

未来をひらく県立図書館事業

未来をひらく県立図書館事業とは？

未来をひらく県立図書館事業は、あおもりの未来をひらく人材の育成のため、平成21年度と平成22年度の2か年で、次の2つの取組みを進めます。

【子どもの未来をひらく】

平成22年の国民読書年に向けて、子どもの読書活動を推進するための取組みを進めます。

- ① こどもブックランド「ほんの森」の開催
おはなし会、科学おはなし会、児童書の展示・貸出しなど。
開催日時：11月8日(日) 午後1時～ 会場：七戸中央公民館
- ② 出前おはなし会「この本よんであげ隊」
県内の図書館未設置市町村において、地域のボランティアによるおはなし会を開催。
- ③ 学校図書館アシスト事業
小・中・県立学校を訪問し、助言や情報提供等を行う。

【地域の未来をひらく】

本県の重要課題である創業・起業等を支援するための取組みを進めます。

- ① 農林水産業支援コーナーの開設 → 3ページで紹介しています。
- ② 県内大学等との連携・協力
横断検索システムの整備など。
- ③ 専門高校ブックデサポート事業
農業・水産・工業高校への専門図書の貸出し。

国民読書年とは？

活字離れが、言語力、読解力の衰退や精神文明の変質の大きな要因の一つとの認識から、2010年を「国民読書年」と定め、政官民が協力し、国をあげて、読書の価値の見直しや意識の啓発など、あらゆる努力を重ねるべきとの決議が、2008年6月6日に、衆参両院において全会一致で採択されました。

目 次

未来をひらく県立図書館事業	1
未来をひらく県立図書館事業イメージ図	2
産業支援「農林水産コーナー」について	3
こんなレファレンスがありました	4～5
子どもの本の紹介	6
郷土資料の紹介	7
近代文学館資料の紹介	8
カウンターから一言	9

未来をひらく県立図書館事業

あおもりの未来をひらく人財の育成



子どもの未来をひらく

地域の未来をひらく

子どもの読書活動推進

国民読書年(H22)記念事業

- ・子どもの読書推進大会の開催
- ・読書に関する標語募集 ほか

地域のボランティア
の活用

学校との連携



地域における読書活動への支援

- ・こどもブックランド「ほんの森」の開催
- ・出前おはなし会「この本よんであげ隊」

学校における読書活動への支援

- ・学校図書館への訪問指導
(小・中・県立学校)

創業・起業等への支援

産業支援サービス

攻めの農林水産業への支援

- ・農林水産業支援コーナーの設置
- ・県内大学等との連携・協力
- ・専門高校(農業・水産・工業)への専門図書貸出



※「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成13年12月に施行
※平成22年を「国民読書年」とする決議案が平成20年6月に衆・参両院で決議

※平成18年3月、国からの報告書「これからの図書館像」において、地域の課題解決や地域振興を支援する役割を果たすべきであると提言

青森県立図書館

◎資料の収集・保存・提供 ◎図書館間の相互協力 ◎学習・調査研究の援助 ◎地域文化資料の収集・保存・提供 ◎地域の情報拠点としての役割

産業支援「農業水産コーナー」について

平成21年5月29日より、産業支援コーナーを拡充して、農林水産関係の産業支援関連図書コーナーを新設しました。

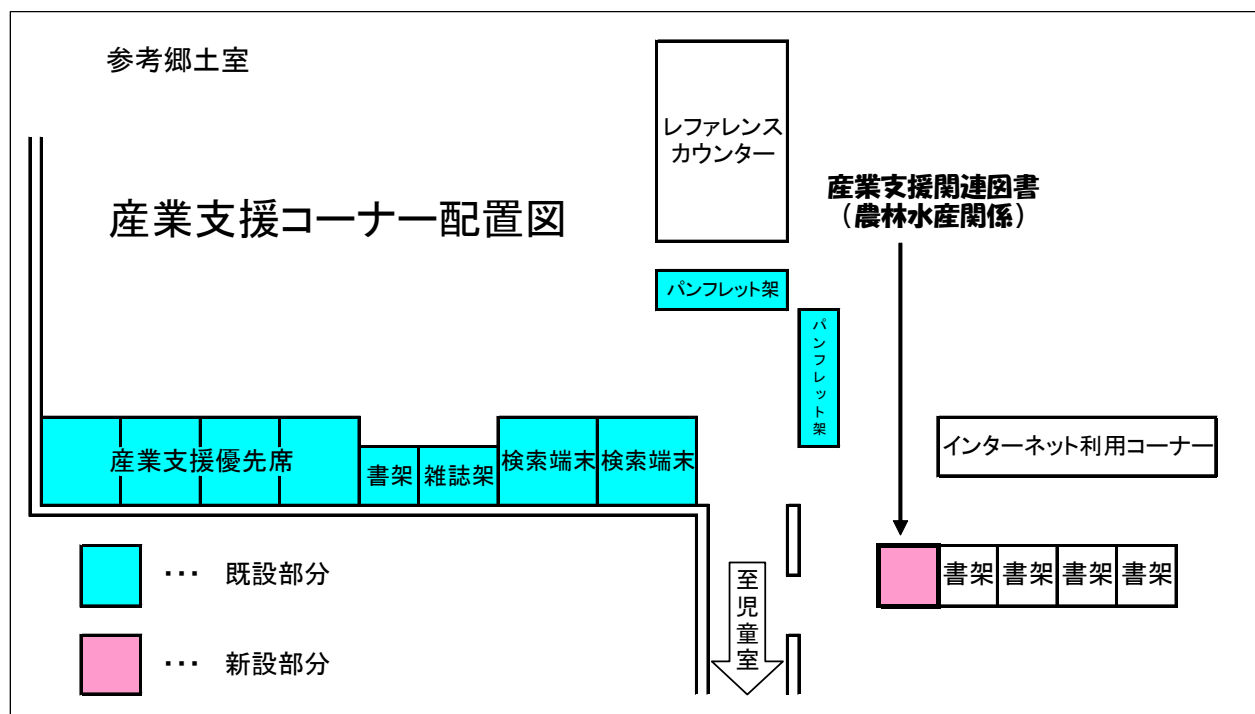


県立図書館では、資格取得など就職につながる情報、創業、起業や経営改善に関する情報、農林水産資源を活用した商品開発などに関する情報等の提供を行い、幅広く産業やビジネスを支援します。

県立図書館を大いに活用してください。



産業支援関連図書（農林水産関係）



こんな レファレンスがありました

(第5回)



参考・郷土室では、「探している本が、どこの図書館にあるのか知りたい。」「こんなテーマの本はありますか。」「こういう事柄や人物を調べたいが、どんな本がありますか。」などというレファレンス（質問）に、図書館資料等を使って、お答えしています。

そのたくさんのレファレンスの中から、毎回、事例を紹介していきます。

【質問】 太宰治が、昭和21年2月6日に母校青森中学で講演をしたと聞きましたが、どのような内容だったのでしょうか。また、東京から来青したのでしょうか？

【回答】

『太宰治大事典』などの資料によると、太宰は、昭和21年2月6日の午後、母校青森中学の1年生から5年生を対象に「眞の教養と日本の獨立」と題して講演をしています。

『青森高校百年史』は、このときの状況を「太宰の講演」として、講演の依頼から青森一泊の後、青森駅を出発して五能線に乗り込むまでを2ページにわたり詳細に伝えています。

予定より早く着いた太宰は、4年1組の生徒に“優れた人とは憂える人、つまり人の憂を憂えることのできる人のことだ”と、黒板に大きく「優」という字を書いて話をしたそうです。

午後1時頃からの全校生徒への講演では、初めに難破した船の遭難者が、灯台一家の団欒の姿を見て、助けを求めるのをためらった、そして、波に飲まれたという話をして、「記録に残されていない事実を掘り起こすのが小説家の仕事である。」といった話や、家族に、「いい山を当てたから幸せにする。」と嘘を言い続けた山師が病気と知り、今度こそという嘘に妻が心から喜んで見せ、山師が安らかに息を引取った話などをしています。

また、講演終了後の質問に、
「絶海の孤島に持って行くとしたら、聖書と鴉外の作品である。」
「教養とは、小川のせせらぎの底に沈む真砂のようなものだ。」などと答えています。
(『青森高校百年史』より抜粋)

太宰は、昭和20年7月31日に生家である金木に戦災を逃れ疎開し終戦を迎えています。東京に戻ったのは、昭和21年11月14日となっていますので、講演当時は、生家の金木に居たことになります。(『太宰治大事典』太宰治年譜より)

【参考資料】

『太宰治大事典』(志村有弘・渡部芳紀編 勉誠出版 平成17年刊)

『青森高校百年史』(青森高校百年史編纂委員会編 青森高校 平成15年刊)

ご質問いただいた内容については、以上のとおり回答できる資料がありましたが、『青森高校百年史』の冒頭、
「昭和21年2月6日10時頃に青森駅に着いた。～略～その日は朝から吹雪であった。～略～ただこらえて4km近い道のりを歩いた。真っ白になって松森校舎に着

いたのは11時頃だった。」とあります。

果たして、太宰は金木から来たのでしょうか？

『青森高校百年史』には、金木からとは書かれていません。

雪深い青森の二月、吹雪の日、当時の交通機関の状況を考えると疑問があります。

そこで、昭和21年1月28日発行『時刻表 2月1日改正号』（復刻版）を調べてみました。

青森駅に10時前後に到着する奥羽線の列車は、青森着8時37分、10時32分の2本です。吹雪の中、4km歩いたとあります。大人の足とはいえホームを歩き、改札を抜け1時間近くは要したのではないのでしょうか。11時頃に学校に到着するには、10時32分着の列車というのは無理があるようです。

それでは、1本前の列車ではどうでしょう。

津軽鉄道線		五所川原着	6時56分（一番列車）	
五能線	五所川原発	6時04分		8時03分
	川部着	7時05分		9時00分
		↓		↓
奥羽本線	川部発	7時44分		9時39分
	青森着	8時37分		10時32分

五所川原方面からの乗換駅である川部駅の出発時刻は、それぞれ7時44分、9時39分です。それらの列車に乗るためには、五所川原駅6時04分発—7時05分川部駅着、同じく8時03分発—9時00分着の列車に乗っていなければなりません。

「津軽鉄道線」の芦野公園駅、金木駅方面から五所川原への一番列車は、五所川原駅6時56分着です。青森駅8時37分着の奥羽線の列車には乗ることができません。

太宰は、金木から電車を乗り継いで青森へ行ったのではないようです。

それではどこからでしょう。前日、五所川原にでも宿泊していたのでしょうか。

『青森高校百年史』の中で、長女の津島園子さんが、太宰の当日の服装が和服、洋服両説あったことの調査依頼に応じて、母美知子の書き残した記録を調べ「その頃は、いつも背広を着ていたことがわかりました。青森中学に出かける前日には、黒石で講演しておりますので、2月6日の当日も、同じような服装ではなかったかと思われます。」と回答しています。

黒石からの始発電車は、6時56分発で川部駅着7時08分です。8時37分青森駅着の列車に間に合います。前日の講演後、太宰は、黒石に宿泊したのかもしれませんが。

折を見て、黒石での講演や宿泊の記録がないか調べてみたいと思います。

●レファレンスは、電話・手紙・FAXのほか、電子メールでも受け付けています。

レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室

電 話 017-729-4311

FAX 017-762-1757

電子メール sanko@plib.net.pref.aomori.jp

子どもの本の紹介(第5回)

様々な本を収集している県立図書館ですが、これまで「教科書」に掲載されたおはなしが、貸出できる本としても沢山あります。

今回は、その中から2冊をご紹介します。



『チックとタック』(光村ライブラリー 1)

ちば しょうぞう:さく あんの みつまさ:え 光村図書出版 2002

(児908J ミツタ(1))

「おじさんのうちのボンボンどけいの中には、子どもがふたりすんでいるんですよ。うそなもんですか。」「おじさんは、名前まで知っているんです。ひとりは チック、ひとりは タック。チックとタック、チック、タック…」

夜12時を過ぎると、動き始める二人の“子たち”は、とてもいたずら好きで、おじさんは、二人がコソコソ話をしている様子や行動をじっと静かに見ていますが…。

この作品は、昭和40年から昭和60年までの長い間、教科書に掲載されていました。「チックとタック」という軽快なタイトルが記憶に残っている方もいらっしゃると思います。また、大正12年に書かれたこの作品は、今読んでもとても新鮮で、90年も前の作品には感じません。さらに、安野光雅さんの挿し絵も、とても印象的です。

『スイミー』ちいさな かしこい さかなの はなし

レオ・レオニ:作 谷川 俊太郎:訳 好学社 1969 (児Eレオニ*)

この作品は、小学2年生の教科書に掲載されています。こちらも、多くのみなさんが教科書で読んだことのあるお話だと思います。

主人公である小さくて黒い魚「スイミー」は、同じように小さな兄弟たちがマグロに飲み込まれてしまい、一人ぼっちになってしまいます。そして、暗い海の底を、悲しい思いをしながら泳いでいたけれど…。

この絵本は、主人公「スイミー」の活躍もすばらしいのですが、「スイミー」の住む海が、とても美しい色で描かれていることも特筆すべき点です。

この『スイミー』の原作者であるレオ・レオニの作品は、同じく谷川俊太郎訳で教科書に掲載されているものが他にもあります。それらの作品は、元々は絵本として出版されたものであり、当館でも多数所蔵しています。

郷土資料
の 紹 介
(第5回)

青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作などを郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様に広くご利用いただいております。

このコーナーでは、当館所蔵の郷土資料の中から、普段は人目に触れる機会の少ない貴重な資料などをご紹介します。

太宰治（1909～48、五所川原市出身）、今官一（1909～83、弘前市出身）、菊岡久利（1909～70、弘前市出身）……三人の本県出身文学者の生誕百年に当たる今年、彼らが生まれ、暮らした当時の青森に思いを馳せた方も多いのではないのでしょうか。

当館では、戦前の青森県の様子を伝える貴重な資料として、[青森県内の絵葉書] 全 53 枚（複製。原本は絵葉書資料館蔵）を所蔵しています。

今となっては失われてしまった往時の県内各地の情景を知ること、彼らの名作が、より一層味わい深いものになることでしょう。



「青森県立図書館全景」



「青森駅停車場」



「弘前市蓬来橋通り」



「八戸市三日町通り」



「青森県三本木町稻生橋ノ景」

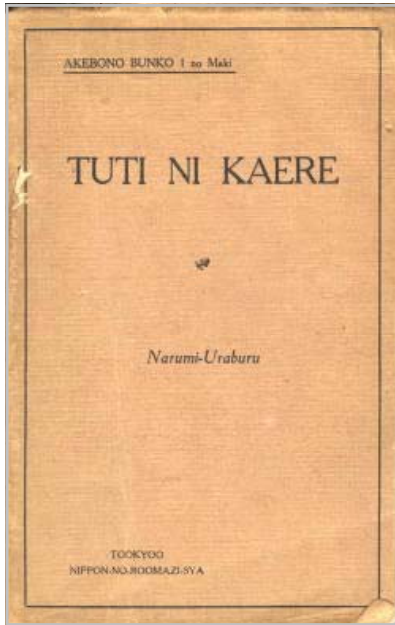
なお、これらの絵葉書は、貴重資料として大切に保管していますので、ご覧になりたい方は、お手数ですが当館職員にお申し出ください。

近代文学館資料の紹介(第5回)

鳴海要吉『TUTI NI KAERE』・菊岡久利『貧時交』

青森県近代文学館では、10月10日から11月23日まで、企画展示室において、企画展「生誕100年 菊岡久利の世界」並びに「鳴海要吉没後50年」を同時開催します。

今回は、節目の年を迎えた二人の作家の代表的な著作を1点ずつ紹介します。



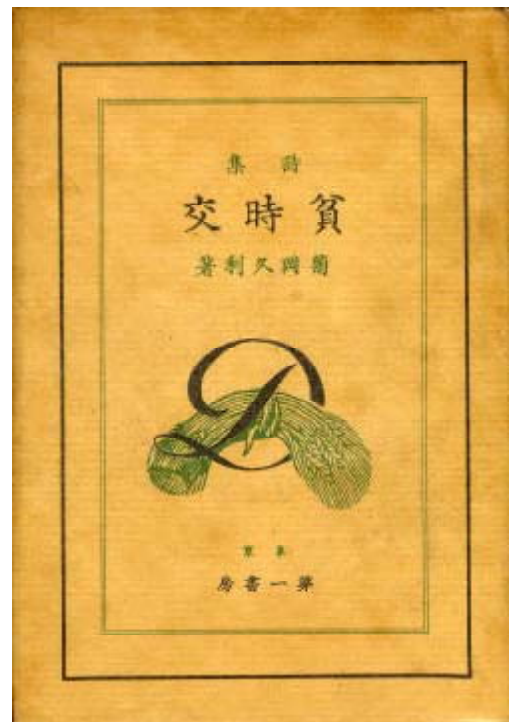
鳴海要吉（表紙ではNarumi-Uraboru）

『TUTI NI KAERE』日本のろーま字社 1914年

鳴海要吉（1883-1959、黒石市出身）は、島崎藤村の詩文に心酔して詩作を始め、上京と帰郷を繰り返した後、青森県師範学校で学び、1907(明治40)年に佐井村に赴任、同年秋に東通村の田代尋常小学校に移り、1909(明治42)年には口語で詠んだ短歌を「東奥日報」に発表します。その後、北海道での教員生活を経て1913(大正2)年に上京、翌年、日本のろーま字社に勤務し、ローマ字書き詩集『TUTI NI KAERE』を刊行しました。黒石時代の新体詩のほか、下北半島・北海道を舞台とした短歌を多く収めた詩集です。

菊岡久利『貧時交』第一書房 1936年

菊岡久利（1909-70、弘前市出身）の処女詩集です。久利は、青少年時代にアナキズム運動に深く関与していました。秋田の小坂鉦山煙害賠償労働争議(1926)を支援したり、長野の岡谷山一林組争議(1927)に参加して松本刑務所に入れられ、東京では、黒色青年連盟の一員としてアナキズムの研究と運動に携わりました。この詩集は、これらの体験を背景にして、貧しい生活者の視点から詩作したものです。特に、詩集の掉尾を飾る長詩「小坂、細越」は、秋田での体験に基づいています。鑛夫や農民が勝利するまでの14章にわたる記録であり、この視点は、生涯変わりませんでした。



カウンターから一言 (第5回)



みなさんは、閲覧室にある「蔵書検索端末」を利用したことがありますか。
今回は、「蔵書検索端末」から印刷した「書誌資料情報」についてご案内しますので、利用される際の参考にしてください。

書誌資料情報 2009/10/06 14:32 青森県立図書館		
タイトル：太宰治検定・公式テキスト 叢書名： 各巻タイトル： 著者名等：太宰治検定実行委員会テキスト 出版者：おおまち第2集客施設整備推進 出版年：2009 サイズ：21cm 資料形態：図書資料 書誌番号：3-0021057705		
資料のある場所 背ラベル番号	資料番号	状態 取扱区分
青県図 B15A 主配架-910.268-タザイ*オー	10213254087	書架
青県図 集密2 郷人-910.268-タザイ*オー	10213254065	書架
青県図 集密2 郷人-910.268-タザイ*オー	10213254076	書架

書誌資料情報 2009/10/06 14:39 青森県立図書館		
タイトル：ホームレス中学生 叢書名： 各巻タイトル： 著者名等：田村 裕 出版者：ワニブックス 出版年：2007 サイズ：20cm 資料形態：図書資料 書誌番号：3-0020879771		
資料のある場所 背ラベル番号	資料番号	状態 取扱区分
青県図 B14A 主配架-779.14-タムラ*ヒ-	10213705959	貸出
青県図 書庫3 主配架-779.14-タムラ*ヒ-	10213713822	書架
青県図 書庫3 主配架-779.14-タムラ*ヒ-	10213713833	書架

- ① まず、「状態」の欄を見てください。
 ア 「貸出」や「予約」の場合は、利用できません。
 イ 「書架」の場合は、②に進んでください。
- ② 「資料のある場所」の欄の「青県図」の右の記載を見てください。
 ア 「書庫2」「書庫3」「集密2」「集密3」の場合は、閲覧室内にはありませんので、カウンター職員にお声がけください。
 イ 「B18A」などと書かれている場合は、案内図「閲覧室配架案内」や書棚の表示により探すことになります。
 なお、案内図は、閲覧室内の柱などに掲示しています。また、一般閲覧室入口付近の「閲覧室配架案内図」や「蔵書検索端末」の所に置いてあります。
- ③ 見つからない場合は、カウンター職員にお声がけください。
 他の入館者が読んでいたり、所定以外の場所に返本されている場合などにより、お探しの本が見つからない場合があります。
 気軽にカウンター職員にお声がけください。

編集後記

ホームページを活用しての「県立図書館だより」第5号は、「未来をひらく県立図書館事業」や、「蔵書検索端末」から打ち出した「書誌資料情報」の見方などをご紹介します。

読書の秋、皆様のご利用をお待ちしております。 (広報委員会)